

かかわるデータを提供する。

デンジョン・サポート・システムは、これらの体系のなかで位置づけられるべきで、どの部分の情報提供を支援するかを明確に定義することから作業をはじめめる。

公共的な意思決定支援システムは、多くの点で民間会社におけるシステムとその目的を異にしているが、そのなかには、きわめて日本的な手続きを含んでいる。

4. 今後の課題

デンジョン・サポート・システムを中間技術として位置づけ、ライフ・サイクル・コストのような総合的な経済性を考慮して、経済領域を探った。

また、情報提供主体という概念を導入して都市・地域計画における情報主体と情報の流れのなかで、デンジョン・サポート・システムを位置づけたうえで、概念設計の段階から方向性を明確に打ち出す必要性を論じた。

かくのごときアプローチを行なった場合には、

必然的に「日本的」なシステムが構成されるはずである。

それが、他の分野に生かされるか否かは、今後の研究に俟たねばならぬが、有効な分野は必ずしも少なくないであろうし、また、海外においても利用されることが期待できる。

参 考 文 献

- [1] 松崎功保「対話的システムの経済評価」東京サイエンティフィック・センター・ワークショップ資料, (1971).
- [2] 兵庫県企画部・東京サイエンティフィック・センター「兵庫ダイナミクス」東京サイエンティフィック・センター・レポート N: GE 18-1808-1 (1974).
- [3] 宮崎秀紀「計画情報分析システム (PIAS) によるプランニングの支援」第2回デンジョン・サポート・システム・シンポジウム講演資料, 於: 京都国際会議場, (1979).
- [4] "Interactive Geo-Facilities Graphic Support: General Information Manual" GH20-2152-0 IBM, (1979).

研究部会報告

●予測部会●

第4回報告

- (1) 出席者 9名
- (2) 日時 9月9日 18:00~20:00
- (3) 場所 早稲田大学システム科学研究所15F
- (4) 議事内容 選挙予測の手法(大田先生:早大)を中心に自由討議

なお、次回より、決められた議題とTIMS文献の勉強とを、半々に行なうことにした。

11月予定

- (1) 日時 11月13日(水) 18:00~20:00
- (2) 場所 早大システム研15F
- (3) 議題 TIMS文献紹介(西野教授)

●政策問題研究部会●

8月合宿研究会 8月31日(日)~9月1日(月)

出席者 17名 場所 鎌倉市由比ヶ浜 若宮荘
(1) 予測・計画・評価の統合新手法(SINPL)

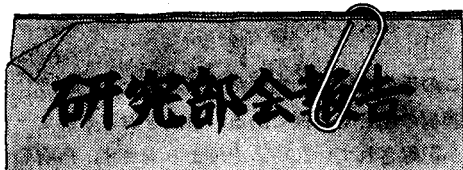
日立製作所 柴田祐作

長期ビジョン展望と多方面総合戦略作成に関係者の合意を形成しながら進める新手法の紹介と説明があった。『科学技術と経済の会』の技術予測発表会(7月)にも発表されたものである。評価と合意による意思決定は政策科学の主要課題であり食事をはさんでの懇談中も討議したが、具体的なテーマを選び10月に合宿して実施評価することにした。

(2) 多国籍企業と国家政策

防衛研修所 福島康人

60年代から80年代にかけてのダイナミックな変動を続ける国際的政治環境、社会および経済環境のなかで多国籍企業(MNC)がいかに発展展開してきたかを実証的に説明した。さらに国家の政策との関連において生じた問題点を指摘した。



●政策問題●

5月31日(土) 14:00~18:00 出席14名(ビジター4名)
場所 防衛大学校セミナー室(小原台)

今村教授のお世話で新緑あふれる防大の構内で行なったため見学希望のビジターも来会した。今後このような遠出のセミナーも企画しているので希望者は前もって幹事までご連絡ください。

「80年代の新しいIEの展望」(武田薬品 湊 晋平)

IE(Industrial Eng.)はOR, SE(Systems Eng.)と親類関係にあり各企業でもよく使われている科学的的管理手法であるが時代とともにQCやORを吸収し発展してきた。

経済的、社会的環境の変化、新しい価値観の登場が予想される80年代には、はたして“今までの路線上の延長のIEでよいであろうか”と問題をなげかけた。

『IEレビュー』Vol.21 No.1(1980)の標題の別刷参照。この提議に対し意見が出て討議した。

●交通問題●

●第4回 7月16日(水) 18:00~20:00

場 所：東洋経済ビル、出席者11名

テーマ：高速道路の経営問題

講 師：高速道路調査会 武田文夫氏

高速道路は、インフラを提供するだけであり、費用中の運営費用の率は低く、金利のウエイトが高い。したがって、元本の償還が始まれば収支は急速に改善され、この点で国鉄の赤字経営とは性格が異なる。ただし、今後開通予定の路線については、需要が少ないため赤字化の恐れがあり、昭和47年に料金プール制を導入した。

今後の料金改定に関しては、需要の伸びとの関係で国鉄と同じ問題をはらんでいるが、これまでの分析では、需要の料金弾性値は0.3~0.5程度である。

●予測とその周辺課題●

発足以来、2回の会合を下記要領で行ないました。

1. 第1回

(1) 場所および出席者数：早大システム研 9名

(2) 議事内容

自己紹介の後に自由討論を行ない、以後の会合の進め方として毎回議題を定め、また各自のかかえている問題も検討することにした。

2. 第2回

(1) 場所および出席者数：早大システム研 10名

(2) 議事内容 西野教授の公害予測論文を中心に意見の交換を行なった。

●日本における社会システム分析●

第8回部会 55.7.12(土) 14:00~17:00

日本能率協会会議室において開催、参会者11名

議題：Liddell HARTの戦略理論と経営戦略への応用
一亜細亜大学、奥村誠次郎

Liddell HARTの戦略理論の特徴は何といっても、Indirect ApproachとGrand Strategyであり、これはあらゆる分野に普遍性をもったものとして評価できるし、われわれが経営問題に取り組む場合、あるいは、社会問題、社会システムをみる視点に大きな示唆を与えるものである。今後の研究の足がかりとして重要な意味をもつものであった。

[研究部会成果要約の配布について]

日本のリソースマネジメント研究部会の成果の一部として、「高齢化に伴うヒューマンリソースマネジメントの問題と対策」(高齢者の働きのしくみとしての10の仮説を含む)ができましたので、希望の方に送りますからお手越しください。(郵送料50円切手同封のこと)

近い将来爆発的に増大するであろうヒューマンリソースの高齢化の問題を、マネジメントの見地からだけでなく、社会システムの見地からもアプローチしております。なんらかのお役に立てられれば幸いです。

(研究部会主査 小島光造 小野勝章事務所)

●経営コンサルタント●

第3回研究会は6月7日(土)14~17時 於：八丁堀東京都勤労福祉会館で開かれました。岡田隆雄会員が収益要素の活用、損益計算の基本公式、損益分岐点、生産性、生産数量計画用q公式などについて発表されました。出席者13名。

●第4回経営コンサルタント研究会

日 時：7月5日(土) 14:00~17:00

場 所：東京都勤労福祉会館(地下鉄八丁堀下車)

講 師：上田亀之助

テーマ：「コンサルタントの側から経営を見る」